

# 避難のポイント

## 避難の心得

### 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、「自分の命は自分で守る」という意識を持って行動しましょう。

具体的には

- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
- 河川のはん濫により、浸水の危険がある地域に住んでいる。
- 子どもや高齢者など家族に要配慮者がいる。

気象情報や市の避難情報に注意し、早めの避難を心がけてください。



### 命を守る最低限の行動を

危険な状況の中での避難は出来るだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定避難所への移動だけでなく、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。

具体的には

- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

屋外での移動は危険です。自宅や近隣建物の2階以上へ(土砂災害の場合は、斜面から離れた部屋など)緊急に一時避難し、救助を待つことも検討してください。



### 避難時の心得

#### ■ 非常持ち出し品は最小限に!

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、身軽に行動できるよう持ち出し品は最小限にしましょう。



#### ■ 家族の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!

特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身に付けて避難しましょう。



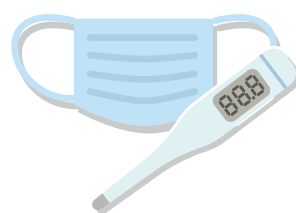
#### ■ 外出中の家族には連絡メモを残そう!

避難前にはガスの元栓やブレーカーを切り、外出中の家族に「どこどこへ避難する」といったような連絡メモを残しておくといいでしょう。



#### ■ 避難所に避難するときは

水や食料、常備薬、防寒対策グッズなどのほか、感染症対策に体温計やアルコール消毒液などを持っていきましょう。また、避難所に行く前に検温とマスクの着用を徹底しましょう。



## 避難のポイント

#### ■ 避難する前に

電気のブレーカーを落とし、ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。

#### ■ 徒歩での避難を!

車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。車中泊避難などの場合を除き徒歩で避難しましょう。



#### ■ 浸水した道路を通る場合

水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。

#### ■ 一人暮らしの高齢者などには気配りを

近所の一人暮らしの高齢者や病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。日ごろから近所同士で事前に話をしておきましょう。

#### ■ 速やかに避難しましょう

避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。避難の際には消防団員などの指示に従いましょう。

## 台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

### 避難行動判定フロー

